出雲郡（いずもぐん）

日御碕神社

「出雲国風土記に記された郡内人口」と「郡内と想定される現在の地域に住んでいる人口と世帯数」

出雲郡（等級：中）		現在の地域（上段：世帯、下段：人口）								
8郷	健部郷	合計	[斐川]三絡	[斐川]神庭	[斐川]学頭	宍道町伊志見				
	里3	667	123	144	400					
23里	1,200	2,152	496	480	1,176					
	宇夜里	合計	[斐川]神庭（宇屋谷）							
0余部		0	健部郷で計上							
		0								
	漆治郷	合計	[斐川]直江	[斐川]上直江	[斐川]原鹿	[斐川]出東	[斐川]上庄原	[斐川]荘原	[斐川]福富（海）	[斐川]美南（海）
1神戸	里3	5,985	1,236	1,459	206	1,133	310	1,311	130	200
	1,200	18,536	3,514	3,853	746	4,163	1,047	4,076	425	712
	河内郷	合計	[斐川]出西	[斐川]阿宮	[出雲]船津	[出雲]上島	[出雲]西谷			
	里3	553	14	135	85	296	23			
	1,200	1,852	58	438	351	944	61			
	出雲郷	合計	[斐川]求院	[斐川]出西	[斐川]富村	[斐川]神氷				
	里3	1,438	196	416	513	313				
	1,200	4,699	702	1,374	1,604	1,019				
	杵築郷	合計	[大社]大社	[大社]日御碕	[大社]鵜鷺	[大社]荒木	[大社]遙堪			
	里3	5,322	2,139	257	126	2,025	775			
	1,200	15,154	5,669	737	233	6,122	2,393			
	杵築郷・伊努郷の間にある（海）	合計	[出雲]里方（海）	[出雲]平野（海）	[出雲]常松（海）	[出雲]江田（海）	[出雲]八島（海）			
		929	428	267	102	76	56			
		2,910	1,293	906	299	231	181			
	伊努郷	合計	[出雲]東林木	[出雲]西林木	[出雲]日下	[出雲]矢尾	[出雲]川跡			
	里3	4,313	299	176	64	204	3,570			
	1,200	12,122	1,003	568	228	661	9,662			
	美談郷	合計	[平田]美談	[平田]西代	[平田]国富	[斐川]今在家				
	里3	956	211	241	340	164				
	1,200	3,270	732	783	1,200	555				
	宇賀郷	合計	[平田]国富	[平田]口宇賀	[平田]奥宇賀	[平田]別所	[平田]河下	[平田]唐川	[平田]猪目	
	里2	480	美談郷国富で計上	89	150	18	137	52	34	
	800	1,506		307	499	47	429	150	74	
	神戸郷	合計	[斐川]併川	[斐川]名島	[斐川]島井					
	里2	689	444	160	85					
	800	2,144	1,433	381	330					

総計	
出雲郡（等級：中）	21,332
10,000	64,345

日御碕～大社～斐川にまたがる出雲郡は、特に平野部において風土記の時代と比べて変化が大きい。江戸藩政期の斐伊川流路変更による宍道湖・神西湖の埋め立てを境に地形が激変しており、専門家でも風土記の時代の地形を正確に読み取るのは困難である。当時の斐伊川、神西湖、宍道湖水面で郡境（特に神門郡）が区分されていた様で、風土記の時代は今よりもずっと水辺が多い景色と想像できる。今でも出雲平野のあちこちから目に入る仏経山は、神名火山と呼ばれた頃から変わらずランドマークとして出雲人に親しまれている。

『出雲国風土記』にも多くの神社が記載されているが、今でも出雲大社を筆頭に多くの参拝客が訪れる。（出雲大社・日御碕神社・長浜神社・万九千神社）

また荒神谷を始め遺跡も多く、それらは歴史的観光資源となり今日重要な産業の支えの価値も生じている。

◆工事と遺跡

長い歴史を持つ出雲地方は大規模造成がされていない地域が多い。その為、未発見の遺跡も多く、工事前の事前調査があちこちで見受けられるのも現代出雲の特色であろう。出雲郡内でも工事に伴い発見された遺跡は多く、広域農道建設現場で発見された神庭荒神谷遺跡、出雲大社境内の古代神殿柱群は日本中の注目を集めた。

最近でも東林木町地内・青木遺跡が国道431号バイパス工事に伴い発見、保存されたように、これからも出雲の地において新たに遺跡が発見され、その都度注目を浴びるであろう。

荒神谷遺跡

◆工場の立地

旧山陰道が通っていた斐川町山麓は、風土記の時代に既に街道が通じていたことからも地盤が安定している地域で、加えて工業用地下水の汲み上げも利便性が高いという。

その特徴から島根富士通や出雲村田製作所といった大規模工場が進出しており、今や出雲の顔ともいえる工業地帯に生まれ変わっている。

当時の郡の中心施設である郡家は今の斐川町出西に在ったとされる。出雲国の中の「出雲郡」、その中の「出雲郷」という地名、旧山陰道と枕北道の交点でもあるから、国府の在った意宇郡と並ぶ出雲国の中でも重要な場所だったのであろう。

郡内の荒神谷遺跡から大量の青銅器が発見された事は、その証左であろうか。今では当時の名残を見るのは難しいが、出西窯が営まれる等、新たな出雲を形作る場所になっている。

※19頁に大好き☆出雲！倶楽部で取り組んだ工場見学レポートを掲載しています。

◆出西窯

出西窯は昭和22年（1947年）、袖師や丹波、益子、唐津などで修行を積んだ地元出身で子どもの頃から親しい5人（井上寿人、陰山千代吉、多々納弘光、多々納良夫、中島空慧）と2名の賛助者が協働して陶窯を築いた。

当初は出雲市にあった工業試験場の技師に指導を受け、古伊万里や京焼のような美術的鑑賞価値のある陶芸品を見よう見まねで作っていたが、柳宗悦やバーナード・リーチ、河井寛次郎といった面々の指導を受け、モダンな作風で独特の世界を切り開いた。

窯元は、出雲の西（出雲市斐川町出西）という意味で地名から取ったもので、多々納重成邸内に仕事場が建設された。窯主を持たない共同作業場となっており、土捏ね（つちこね）、轆轤（ろくろ）回し、焼きなどの工程一つ一つが共同作業となっているのが特徴で、安価で飽きの来ない丈夫な焼き物が共通理念で、大衆向けの民陶として知られているが、粘土から釉薬（ゆうやく）、薪に至るまで原料は全て島根県産で通すなど、こだわりが見られる。

◆作物

『出雲国風土記』には当時採取出来たであろう植物が多く記載されている。現在では一般的でないものも中にはあるが、逆に今では有名な物もある。出雲郡では出西でしか栽培出来ない「出西生姜」、風土記時代の入海が堆積した砂地に植えられた「デラウエア」は紛れもなく現代出雲郡の特産であろう。

デラウエア

出西生姜

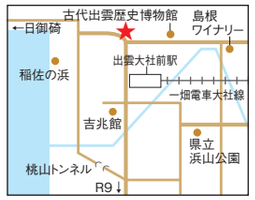
出雲郡の神社

※杵築（きづき）大社　※御魂（みたま）社
※御向（みむかい）社　※出雲（いずも）社
※御魂社　※伊努（いぬ）社　※久年（くむ）社
※曽伎乃夜（そきのや）社　※阿受伎（あずき）社　※美佐伎（みさき）社
※伊奈佐乃（いなさの）社　※彌太彌（みだみ）社
※阿我多（あがた）社　※伊波（いわ）社　※阿具（あぐ）社
※都牟自（つむじ）社　※久佐加（くさか）社
※彌努婆（みのば）社　※阿受枳（あずき）社
※宇加（うか）社　※同　阿受枳社　※布世（ふせ）社
※神代（かむしろ）社　※加毛利（かもり）社
※来坂（くるさか）社　※伊農（いぬ）社　※同社　※同社
※鳥屋（とや）社　※御井（みい）社　※企豆伎（きづき）社
※同社　※同社　※同社　※同社　※同社　※阿受枳社
※同社　※同社　※同社　※同社　※同社　※同社
※来坂社　※伊努社　※同社　※同社　※彌陀彌（みだみ）社
※縣（あがた）社　※斐提（ひて）社　※韓鉏（からかま）社
※加佐伽（かさか）社　※立虫（たちむし）社
※波禰（はね）社　※伊自美（いじみ）社
〔以上五十八所はいずれも神祇官社。〕
御前（みさき）社　同　御埼（おなじき　みさき）社
支豆支（きづき）社　※阿受支社　※同　阿受支社　※同社
※同　阿受支社　※同　阿受支社　※同社　※同社
※同社　※同社　※同社　※同社　※同社　※同社
※同社　※同社　※同社　※同社　※同社　※同社
※同社　※同社　※同社　※同社　※同社　※同社
伊努社　同伊努社　同社　同社　同社　※縣社　※彌陀彌社
※同　彌陀彌社　※同社　※同社　※同社　※同社
※同社　※同社　※同社　※同社　※伊爾波（いには）社
※都牟自（つむじ）社　※同社　※同社　彌努波（みのは）社
※山辺（やまべ）社　※同社　※同社　間野（まの）社
布西（ふせ）社　※波如（はね）社　※佐支多社
※支比佐（きひさ）社　神代社　同社
百枝槐（ももものえにす）社
〔以上六十四所はいずれも不在神祇官社。〕

『解説出雲国風土記』本文・現代語訳より

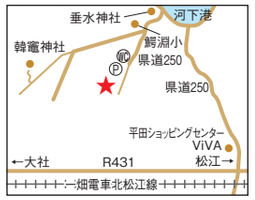
大好き☆出雲！倶楽部で作成した「お願いどころマップ」

出雲大社（いずも おおやしろ）

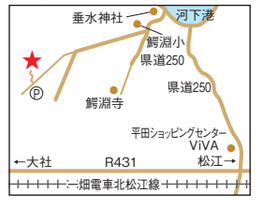


日御碕神社（ひのみさき じんじゃ）

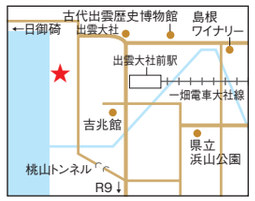
鰐淵寺（がくえんじ）



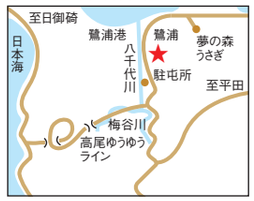
韓竈神社（からかま じんじゃ）



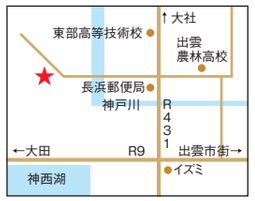
稲佐の浜（いなさ はま）



伊奈西波岐神社（いなせはぎじんじゃ）



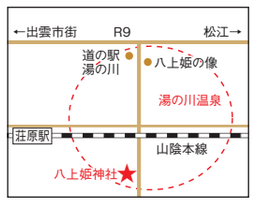
長浜神社（ながはま じんじゃ）



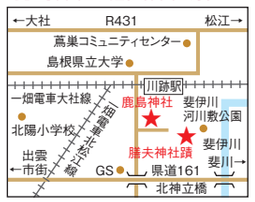
富神社（とび じんじゃ）

奉納山・於國塔、出雲阿国の墓（ほうのうざん おくにとう いずも おくに はか）

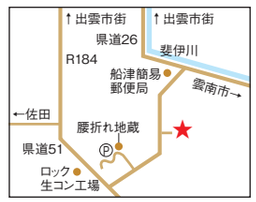
湯の川温泉、八上姫神社（ゆ かわおんせん やかみひめじんじゃ）



鹿島神社、膳夫神社蹟（かしまじんじゃ かしわでじんじゃあと）

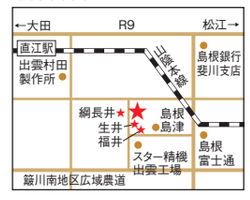


火守神社（ひもりじんじゃ）

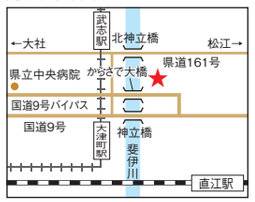


腰折れ地蔵（こしおれじぞう）

御井神社（みいじんじゃ）



万九千神社（まんくせんじんじゃ）



出雲大社

ご祭神は「因幡（いなば）の白兎」の主人公"だいこくさま"の愛称で知られる「大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）」。旧暦10月の神在月に全国から八百万神（やおよろずのかみ）をお迎えし、様々なご縁組みなどの会議が執り行われるそうです。どうぞしっかりとたくさんの、幸せのご縁がありますように…。

日御碕神社

天照大御神（あまてらすおおみかみ）と素戔嗚尊（すさのおのみこと）の二大神がご祭神。近くには、ウミネコの繁殖地として知られる島全体が神域の経島（ふみしま）があり、日本海に沈む夕日のビューポイント。海底遺跡があるという逸話も。立っているだけで願いごとが叶いそう！

鰐淵寺

天台宗の古刹、鰐淵寺は、あの武蔵坊弁慶が若き日に修行したところと言われています。見事な自然が残る境内、根本堂にいたる石段や滝の真ん中にそびえる蔵王堂。すっぽりと時空を超える景観に包まれ、思わず願いごとさえ忘れそうな、祈りの地でもあります。

韓竈神社

ご祭神の素盞嗚命（すさのおのみこと）が、岩船に乗って、新羅（しらぎ）から「鉄器文化」や「植林法」を伝えたという神話が残る地。鳥居の随分手前から、未舗装の道を通り、険しい参道を登り、さらに隙間約45㎝の大岩の間を抜けた先に本殿があります。これだけの思いをしてお参りするのだから、きっと願いは叶うはず。思いがノートに記されています。

稲佐の浜

神話「国譲り」の舞台として有名なこの浜は、神在月（旧暦10月）の神迎神事（かみむかえしんじ）の地。冬にはとても荒々しい姿を見せる日本海に向かって、美しい夕日の太陽エネルギーとミネラルいっぱいの潮風エネルギーを浴び、どんどん元気が湧いてくる…パワースポットともいわれています。

伊奈西波岐神社

出雲国造の祖神、天穂日命（あめのほひ）の子「稲背脛命（いなせはぎのみこと）」が御祭神。稲佐の浜での「国譲り」に際し、大国主大神の命を受け、御子神の事代主神（ことしろぬし）の意見を聞きに美保関まで奔走された神です。「通信」の始まりと言われるこの使いにより、国譲りは平和に解決しました。天然痘の守護神としても広く崇拝されてきた命は、穏やかで素敵な港町"鷺浦"に祭られています。

長浜神社

出雲国風土記の冒頭を飾る「国引き神話」の主人公、八束水臣津野命（やつかみずおみつぬのみこと）がご祭神。海の向こうの土地に綱をかけて引き寄せ、出雲の国つくりをされた…ということで、綱引きの祖とも言われています。スポーツ上達のお願いは、綱引きの発祥の地でお願いするのが一番。

富神社

八束水臣津野命を祭る、その名も「富」神社。神社がある斐川町富村（とびむら）は、「十二郷七浦」と呼ばれ、出雲大社領とされた地域。神名火山（かんなびやま）から眺めて「国引き」を思い立ち、その大仕事により「富」をもたらした命が、鎮座の地にお選びになった「富」の地。「富」は自らの力で引き寄せるもの？

奉納山・於國塔、出雲阿国の墓

歌舞伎の始祖「出雲阿国」は、出雲大社の巫女であったといわれ、晩年はこの地で暮らし生涯を終えたと伝えられています。昭和11年、大社湾が一望できる奉納山の中腹に、阿国を顕彰する石塔が建てられ、それを囲む石柵に歌舞伎役者や当代一流の芸能人の名前が刻まれました。以来、知る人ぞ知る、芸能など上達のお願いどころとなっています。

湯の川温泉、八上姫神社

大国主大神と恋に落ちた因幡の国の八上姫（やかみひめ）は、出雲の国に帰られた命を慕って、はるばる旅に出られました。途中、岩の間から、こんこんと湧き出る湯の川を見つけ、旅の疲れを温泉でいやされ、心身共にお元気になり、いっそう美しい神になられたそうです。今だったら、先ずは道の駅「湯の川」で足湯を楽しんでから…ってところでしょうか。

鹿島神社、膳夫神社蹟

鹿島神社のご祭神は、稲佐の浜での国譲りの際、天照大御神から遣わされた建御雷神（たけみかづちのかみ）。古事記では、国譲りを決意した大国主大神が、料理の神様「膳夫神（かしわでのかみ）」に命じて饗応なさいました…。この地は、日本で最初におもてなし料理が振る舞われたところといわれています。斐伊川河川敷公園には膳夫神社蹟があります。

火守神社

ご祭神は、大国主大神が国譲りをした際、スズキを調理された櫛八玉神（くしやたまのみこと）。境内には太古からの息吹をそのまま感じる摂社があり、「包丁塚」も安置され、地元の出雲調理師会をはじめ県外からも、料理関係者の参拝があります。今年こそは、お刺身を完全マスター！

腰折れ地蔵

腰の痛みをはじめ諸々の願いごとにご利益があると言われる三つの石で成り立つお地蔵さん。辺りは、うっそうとした竹林と森に被われているため、静かな胎内に入っていくような幻想に捉われます。腰痛の原因となった普段の生活もじっくり回想するにはやっぱりココでしょう。

御井神社

因幡の国から大国主大神を尋ねて出雲に来られた八上姫は、この地で産気づかれ、お産のため三つの井戸（生井（いくい）、福井（さくい）、綱長井（つながいい））を掘り、御子を産湯させてから木の俣に残し、因幡へ帰られたそうです。この神話がそのまま社名になっており、主祭神はこの時生まれられた木俣神（このまたのかみ）と母神の八上姫神。ご利益も神話のままに安産、母子の発展などだそうです。

万九千神社

櫛御気奴命（くしみけぬのみこと）、大穴年遅命（おおなむちのみこと）、少彦名命（すくなひこなのみこと）の三柱と八百万神がご祭神。立虫神社（たちむしじんじゃ）の境内社です。神在月には、全国八百万の神々が、出雲大社から、最後にここに立寄って神議を締めくくり、別れの宴である直会（なおらい）を催した後、再会を期して全国へお立ちになります。きっと出雲でのお話をもとに日本全国に幸せを届けられることでしょう。

「仏経山」取材レポート

神在月、全国から集まった神様達は神名火山から帰路につかれると言われています。『出雲国風土記』には四つの神名火山が書かれており、その一つが仏経山です。戦国の武将尼子経久がこの山に12の寺院を建立し、仏経山と名付けたとか。

さて、「仏経山の麓に鎮座している曽枳能夜神社は、その昔この山頂にあり、今も無線中継局の所に祭祀場の跡が残っている。」そんな話を聞き、その跡を見てみたい。仏経山に登って、そこから出雲平野を見てみたい。そんな些細な想いから、登ってきました。

阿宮側からくねくねとした道を登ると、すぐに無線中継局に着きました。どこだろうと辺りを探すとありました。小さな岩が静かに。石碑に刻まれた曽枳能夜神社の文字がその証です。その大きさに反し、大きなパワーを発して座っていました。

ここは木々が生い茂り、展望が良くないので、少し離れた展望広場へ登り、出雲平野を見てみることにしました。途中には大きな岩がごろごろとあり、まるで修験の山、まさに仏経山って感じでした。

旅伏山・弥山山地を背に日本海から宍道湖まで一望できる眺めは素晴らしかったです。当時は入海だったあたりも今では豊かな平野に姿を変えています。千年先にはどんな景色が広がっているのでしょうか。

◆ 1300 年前にあった神社と現在状況

出雲国風土記	現在の神社	所在地
杵築大社	出雲大社	大社町杵築東
御魂社	神魂伊能知奴志神社	大社町杵築東
御向社	神魂伊能知比志神社	出雲大社境内
出雲社	大神大后神社	出雲大社境内
	素鷲社	出雲大社境内
	富神社	斐川町富村
	長浜神社	西園町
	諏訪神社	別所町
伊努社	伊努神社	西林木町
	都我利神社	東林木町
意保美社	意保美神社	河下町
曽伎乃夜社	曽枳能夜神社	斐川町神氷
	韓国伊太弖奉神社	斐川町神氷（曽枳能夜神社境内）
久牟社	久武神社	斐川町出西
阿受伎社	阿須伎神社	大社町遙堪
美佐伎社	日御碕神社	大社町日御碕
伊奈佐乃社	因佐神社	大社町杵築北
彌太彌社	美談神社	美談町
阿我多社	縣神社	国富町
	縣神社	美談町（美談神社境内）
伊波社	伊波神社	美談町（美談神社境内）
伊爾波社	伊爾波神社	国富町（縣神社境内）
阿具社	阿吾神社	斐川町阿宮
都牟自社	都牟自神社	国富町
	都牟自神社	斐川町福富
	都武自神社	斐川町直江
久佐加社	久佐加神社	日下町
来坂社	來阪神社	矢尾町
彌努婆社	奥宇賀神社（合祀）	奥宇賀町
	宇賀神社（合祀）	口宇賀町
宇加社	宇賀神社	口宇賀町
布世社	奥宇賀神社	奥宇賀町
神代社	神代神社	斐川町神庭
	万九千神社（合祀）	斐川町併川
加毛利社	加毛利神社	斐川町神氷
鳥屋社	鳥屋神社	斐川町鳥井
御井社	御井神社	斐川町直江
企豆伎社	神魂御子神社	出雲大社境内
	大穴持御子神社	三歳社　大社町杵築東
	伊那西波岐神社	大社町鷺浦
	大穴持御子玉江神社	乙見社　大社町修理免
	湊社	大社町中荒木
斐堤社	斐代神社	唐川町
韓銍社	韓竈神社	唐川町
加佐伽社	伊佐賀神社	斐川町出西
波禰社	波知神社	斐川町三絡
	波迦神社	斐川町三絡
立虫社	立虫神社	斐川町併川
山辺社	山辺神社	大社町杵築西
間野社	原鹿神社	斐川町原鹿
佐支多社	佐支多神社	斐川町荘原
支比佐社	支比佐神社	斐川町神氷（曽枳能夜神社境内）
百枝槐社	日御碕神社	大社町日御碕

神社について

出雲大社が座し、また、同名の神社が風土記に多く見受けられる出雲郡。それら同名の神社の多くは今では合祀されまとめられている。以前は美談神社に参拝するとその摂社に同じ摂社名がびっしりと書かれており、往時はそれだけ多くの美談神社が各所に祭られていたことが読み取れ、郡の特色が実感できた。立地は山の中腹・山際に座す神社が多い事から今でも当時の雰囲気を伺える社が多い。遷座された神社では、日御碕神社は経島に座していたらしいが、今では一般の方は対岸から眺めるのみである。神名火山上に座していたとされる神社は現在は山の下に遷座されている。（曽枳能夜神社）しかし、祭祀の跡は今でも山上に残されている為、仏経山の頂に登れば当時の祭祀場を実感出来る。

万九千神社（まんくせんじんじゃ）

神立、神等去出で有名な万九千神社は『出雲国風土記』に記載されていない。元々、別の場所に座していたらしいが、斐伊川の流路変更に伴い現在の様に立虫神社の境内に移されたそうである。

今ではそもそもの立虫神社より有名になった万九千神社、正門正面の立虫神社に対し、向かって右側に祭られている。立虫神社と異なり社殿は拝殿のみ。裏に石が据えられており、この石に神立前の八百万神が依代されるそうだ。

万九千神社

長浜神社

『出雲国風土記』の冒頭にある「国引き神話」は、綱をかけて海のむこうにある土地を引き寄せて国を造る話である。長浜神社は、国引きの綱の「薗の長浜」の地に鎮座して、国土生成・国引きの神を主祭神としてお祀りしている。海のむこうの土地に綱をかけて引き寄せて大地を造られたことから、綱引きの祖「スポーツ上達・不動産守護の神」としてのご神徳が知られている。国引きが終わった時に神は杖をたてられ、その後も杭を打って歩かれました。これが島根半島に点在する要石であり、社地の妙見山にも土地鎮めの要石と子授け安産の夫婦石が祀られている。社号にも「出雲」を冠し「出雲社」「出雲神社」などと称していたが、創建・開創は和銅３年（７１０年）以前で、中世以降は妙見山に位置していたことから「妙見社」・「妙見大社」などと呼ばれ、明治以降は「長浜神社」となり現在に至っている。

また、豊臣秀吉の朝鮮出兵の際の百日祈願でも知られている。加藤清正、片桐且元、福島正則といった名だたる武将の参拝があり、その折の「弓掛の松」が境内にある。緒戦の連勝に太閤はいたく喜び、桐の神紋をはじめ恩賞を授かっている。この頃から「武道・スポーツ上達の守り神」のみならず「勝負に勝つ神」として広く信仰を集めるようになった。

江戸時代には、大梶七兵衛の開拓に先行して、社家の秦重成・喜兵衛の兄弟による私財をなげうっての海岸の砂防植栽と神門の水海の干拓事業が、近世の国引きとして地域開発の歴史の一頁を彩っている。

長浜神社と水運

『国引き神話』の引綱である薗の長浜に座す長浜神社。その御祭神は国引きを成された八束水臣津野命である。今では出雲平野と一続きの薗の長浜ではあるが、風土記の時代はまさしく綱の様に伸びた砂嘴で、当時の長浜神社も云わば島に座す神社だったのではなかろうか。推定される地形を見ると薗の長浜は当時の神西湖を守る防波堤のような位置に在り、出雲大社周辺その物が有力な港湾であったはず。「八束水臣津野命」という文字、一説に万葉仮名の様に、同じ音でその意味は八束水「大水主命」であると唱える専門家もおられる。

であるなら、大国主命の祖先神である八束水臣津野命、まさしく当時の水運を司り、出雲郡の繁栄を引き寄せられた神様なのであろう。

長浜神社

出雲国風土記掲載事項チェック

		風土記表記	現在名称	所在地
出雲郡	総記	出雲郡家の所在地	斐川町出西の後谷V遺跡とその周辺	
	郷	宇夜都弁命	他に見えない神	
		倭健命	景行天皇の皇子	
		神門臣	神門郡を本拠地とする氏族	
		天津枳値可美高日子命	他には見えない神。漆治郷の鎮守神	
			(天から降りて)(この地に来て見る)(太陽の御子)神	
		薦枕志都治値	天津枳値可美高日子命の別名	
			(薦枕)マコモで作った枕、志都にかかる枕詞(志都治)地名(値)神霊	
		斐伊大河	斐伊川(河内郷を横切り北へと流れる)	
		隄	陂(つつみ:堤防)唯一長さを記載。珍しい大規模土木工事だった。	
		伊美豆努命	八束水臣津野命(国引きをなさった)	
		赤衾伊農意保須美比古	赤い寝具で寝る沖積地を守護する男神	
		佐倭気能命	赤衾(赤い布)伊農(寝る)意保須美比古(沖積地を見守る彦神)佐和気(守護神)能命	
		和加布都努志命	秋鹿郡の大野郷にも同名の神	
		天御領田	天つ神の御領地(天御飯田と同様の意味)	
		御田	天御領田と同一の意味	
		綾門日女命	他には見えない神(綾織場の女神)	
			綾(文様を織り出した絹織物)門(入口)日女命	
		脳磯	猪目町海岸にある岸壁	
		窟戸	洞窟(猪目洞窟または水垂の磯)	
	寺社	新造院	上乗寺	上島町
	山野	神名火山	仏教山(H366m)	斐川町神氷と阿宮の境
		出雲御崎山	旅伏山(H456m)～	東林木町と口宇賀町の境
			弥山(H495m)山麓	猪目町、大社町修理免、菱根、遥堪の境
		所造天下大神の社	出雲大社	大社町杵築東
	河川・池	出雲大川	斐伊川	
		北に折れてさらに西に流れ	現在は武志町付近から東に流れ宍道湖へ注いでいるが、古代においては西に流れ神門水海に注いでいた。	
		神門水海	神西湖を含む湖	
		意保美小川	唐川川	河下町
		土負池	詳細不明	
		須々比池	詳細不明	
		西門江	詳細不明	斐川町三分市にあった？
		大方江	詳細不明	
	海岸地形	宮松埼	小津町と奥宇賀町和田との間に突き出ている小岬(現在は大きな地形改変あり)	
		意保美浜	河下町の唐川川河口にあたる海岸	
		気多島	河下町の平島	
		井呑浜	猪目町猪目漁港付近海岸	
		宇太保浜	大社町鵜峠の海岸	
		大前島	大社町鷺浦沖の鶴島	
		脳島	大社町鷺浦の湾に浮かぶ柏島	
		鷺浜	大社町鷺浦の鷺浦漁港付近の海岸	
		黒島	大社町鷺浦と日御碕の境にある足毛馬島	
		米結浜	桁掛半島の西にある突き出た岬	
		爾比埼	日御碕の桁掛半島	
		宇礼保浦	宇龍の宇龍漁港付近の海岸	
		山埼	宇龍の権現島	
		子負島	宇龍の海岸西北方の岩島のひとつ	
		大椅浜	日御碕灯台の東北方で北に面した浜(おわし浜)	
		御前浜	日御碕神社のすぐ前の浜	
		御厳島	日御碕の沖に浮かぶ経島	
		御厨家島	日御碕の経島の西にある島か？	
		等々島	日御碕の浜の西方に浮かぶ瞿島	
		至聞埼	日御碕の西南端の突端の追石鼻	
		意能保浜	日御碕の南方の黒田港付近の浜	
		栗島	日御碕の南方の黒田港の東南方にある赤島	
		黒島	日御碕の南方の御這田の浜の西方にある礫島	
		這田浜	日御碕の南方の御這田の浜	
		二俣浜	日御碕の南方の二俣港付近の海岸	
		門石島	稲佐浜海岸近くの弁天島	
		薗	大社町杵築西の湊原付近。薗の長浜の北方	
		神門水海	神門郡	
		御埼海子	漁業や製塩などに携わる者のこと	
	通道	佐雑村	松江市宍道町佐々布付近	
		出雲大河	斐伊川(出雲大川)	
		多義村	斐川町上阿宮の古地名	
		宇加川	楯縫郡の宇賀川	
	郡司	若倭部臣		
		日置部臣		
		大臣		

工場見学レポート

「出西窯」を紹介します。

◆子どもたちに伝えたい出雲の産業

昭和22年に創業した出西窯では、現在約20名の皆さんが、地元の原料を生かし、くらしの道具として喜んで使っていただける素朴で健康な美しい器をつくっています。

◎ていねいな手づくりのよさ、心のこもった製品が、使う人の心を温かくする。手づくりは、一つずつ違いがあってよいです。
◎熟練の技で作り出される陶器はすばらしいです。
◎美しい陶器の魅力を、私たちが若い人たちに伝えていくことが必要です。

登り窯の見学

◆出雲ブランド商品物語

出西窯の皆さんは、郷土の土や釉（うわぐすり）の原料を大切にし、創業当時から大切にしている「おもてなし」の精神で、心を一つに実用の器づくりに取り組んでいます。

この「おもてなし」の精神で、毎年11月には「登り窯・炎の祭り」を開催され、また展示販売館では、出西窯の器でコーヒーや斐川町産の番茶が用意され、訪れる人にくつろぎのひとときが提供されています。

工場見学レポート

「ノートパソコン〔㈱島根富士通〕」を紹介します。

創業24年。

日本一の生産量

出雲は地震が少なく、交通利便性が高いところにある。

多品種･小ロットを一貫生産

累計3千万台生産を達成。

工場見学随時受付中（グループのみ）

メイド　イン　ジャパン
メインボード製造から最終組立まで一貫生産

◆参加者の声

◎細やかな作業できちんと製造される過程を直接見ることができ、出雲ブランドにふさわしく、世界にも自慢できる商品であることを確信しました。
◎流れ作業工程の中でも同じ製品を作っているのではなく、種類の違うものを順次組み立てていることにびっくりしました。
◎機械・ロボット・人との連携がうまくいっている。顧客重視の製品管理が十分されている商品です。
◎日本の製品は、高品質、高機能、充実したサポートが魅力だと改めて感じた。
◎出雲ブランドとして世界に進出するパソコンに自信を持った。出雲人として誇りです。

製造工程ラインの説明

◆子どもたちに伝えたい出雲の産業

◎何より、最先端のパソコン、世界で使われるパソコンが出雲の地で作られているという事実をもっと伝えて、出雲に誇りを持ってもらいたい。
◎㈱島根富士通のパソコンの生産数は日本一ということ。（知らない人がまだ多い）
◎㈱島根富士通には素晴らしい技術があり、今後子どもたちにも地元でこのすばらしい仕事に就業してほしい。それだけの魅力がある。
◎出雲人の勤勉さ、仕事に対する熱意、技術の高さが世界に誇る製品を作り出している。ものづくりは立国の原点であり、日本人が世界に誇る魅力である。
◎常にこれで終わりということはなく、日進月歩秒単位で改善が進められている。このことの重要さを子どもたちに伝えたい。

ネジ締め体験中

◆出雲ブランド商品物語
「見えない地道な取組を自慢の製品に表わす！」

経営理念「人は仕事で成長し、社会に貢献する」に基づき、品質保証の仕組みや改善提案システムを作り、品質向上に取り組まれている。限られた人員・経費の中で、いかに効率よくするかは、そこで働いているすべての人が常に考え、行動するという取組・意識が必要である。これを実践した結果が品質に表れている。

製造ラインで担当作業に集中する社員